

# まつもと 公民館報

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 30

長野県の準絶滅危惧に指定

## ケシヨウヤナギ

上高地を

代表する木

ケシヨウヤナギは若木の木肌が白くなり、早春の小枝は紅色に染まり、化粧をしたようにみえるので、この名が付けられました。

北海道では、日本最大の群落がみられます。昭和2年に上高地で自生しているものが発見され、有名になりました。河童橋の横には、樹高20メートルほどの大木があります。

その後、昭和24年に梓川で自生しているケシヨウヤナギが発見され、梓橋の下流でも群落が見つかりましたが、大水で流されてしまい、残っていません。

現在は梓橋の上流に、点々と自生しています。



パネルディスカッション

松本市では、これまで公民館が育んできた住民自治と協働の力を、今後のまちづくり・地域づくりへのよき活かししていくのかというテーマに、地域づくりの現状、その中で公民館や地域づくりの課題、今後への期待が議論されました。

●**コーディネーター**  
 ●**築山崇** 京都府立大学学長  
 松本の公民館の調査に15年間通っていた。「楽しくなければ学びじゃない」と住民の

飯田市から始まり、尼崎に次いで今回で3回目を迎えたこの大会は、人口減少などさまざまな問題が複雑に絡み合う地域社会において、住民とともに、行政、企業、大学、市民活動団体などの多様な主体が連携・協力し、自治力を高め、安心して暮らすには何ができるのかを考える集会です。

館がつなぎ役となり、多様な主体が共に学び合い、実践してきました。過去の大会の成果を踏まえ、公民館活動に焦点を置き、様々な事例を掘り起こし、自治の必要性、協働のあり方、それぞれの役割などを考え、学び合いました。

●**三村伊津子** 元松本市町内公民館館長会長  
 徒士町の町内公民館長時代の経験から、まちづくりは人のつながり、地域づくりの基盤は町会にある。

# 「未来を拓く自治と協働のまちづくり」を目指す研究集会

## 松本大会を開催

大会は1月28・29日にまつもと市民芸術館と中央公民館で行われました。全国から700人を超える参加者があり、1日目は、パネルディスカッションと全国リレートークなどが行われました。

方と言われたことが心に残っている。

●**伊藤学司** 前長野県教育長  
 公民館は役所の出先機関ではない。松本型の「緩やかな協議体」は国の推進する「課題解決型の公民館」の先を行くモデルとして注目されている。また、地域に関する高校一年生の学習「私たちの信州学」に、公民館がサポートしてほしい。

●**白戸洋** 松本大学総合経営学部教授  
 合併の歴史を持つ松本市は分散型のまちづくり。公民館・福祉ひろばが全地区で特色ある活動をしている。その核に地域づくりセンターを置くシステムづくり。

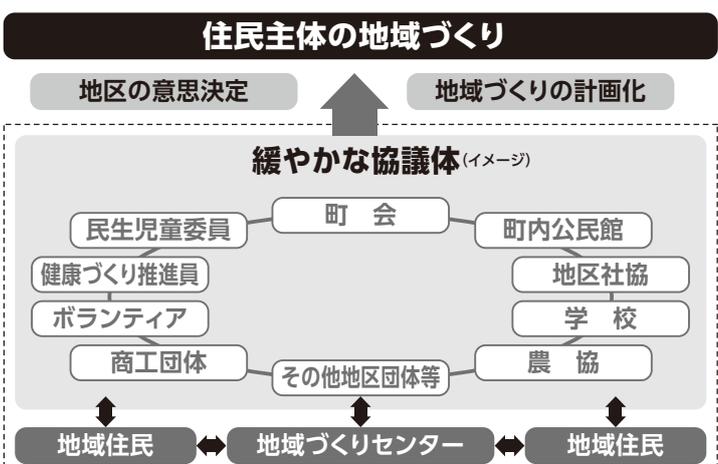
●**菅谷昭** 松本市長  
 住民が主役、行政は黒子。住民が主体性を持って公民館活動を行っている。それが生きがいづくりにつながる。

●**岩城和志** 淡路市社会福祉協議会参事  
 住民が、地域の「弱さ」を見ることで、人が結び付いた。まず地域に向き合わないと始まらない。

●**重森しおり** 岡山市立中央公民館社会教育主事  
 岡山は中学校区ごとに公民館がある。公民館を拠点に「持続可能な開発のための教育(ESD)」活動に取り組んでいます。

●**池田馨** NPO法人ひと・まちなつとわーく理事長  
 東日本大震災をきっかけに、災害対応ネットワークとコミュニケーションづくりを推進。自治会を中心とした連携の成果は上がったが、さらにもっと展開していくのか。

### 「緩やかな協議体」図解



**緩やかな協議体の特徴**  
 決められた委員等が地区の意思決定を行うのではなく、課題の大きさや内容によって、意思決定に参加する団体や個人が柔軟に入れ替わる仕組みが「緩やか」の意味であり最大の特徴です。

- 緩やかな協議体の機能**
- 地区の既存の団体をつなぐネットワーク機能
  - 地区の意思決定・合意形成の機能
  - 誰もが話し合いに参加し意見交換する機能
  - 地域づくりの計画化機能
  - 地区の情報や課題を提供し、共有する機能
  - 計画に基づき役割分担する機能

# 2日目は分科会と まとめの会を実施

大会2日目は中央公民館で、11の分科会が、テーマや協議の柱に沿って行われました。最後にまとめの会が行われ、2日間の日程を締めくくりました。また初めての試みとして、まちづくりなどに取り組む地域の団体などが、活動を紹介する、市民活動商店街が行われました。

## 第1分科会 「まちづくりの地域は自分たち 創り出す理想が実現できるか」

話題提供の後、グループに分かれ、テーマについて話し合いました。各グループからは少子高齢化や独居など恒常的な話題が挙がった一方、希望を持って楽しく生きてゆくことが、問題解決に繋がってゆくのではないかと、この印象的な意見も出ました。地域を創る発想を住民が持

つことで地域づくりのシステムを生み出すという考えが、各グループの共通の討議でした。

## 第4分科会 魅力を感じる地域の魅力を なぜ実現する

最初に地域の魅力づくりの創りに繋がった事例の発表があり、次に安曇地区稲核町会を題材に何が地域の魅力を創出できるのかを話し合いました。

意見として、①看板設置など野麦街道の整備②蚕や稲核

## 市民活動商店街

地域づくりや市民活動などに取り組む団体を集め、市民活動商店街と名づけ活動紹介をする催しが行われました。

震災による避難者との交流会を行う会や、障害のある方の就労や家族支援をする会など、24団体が活動の様子を伝えていました。



業などの文化伝承③風穴群の保存④ダム広場や吊り橋の活用⑤秘境のような環境の活用などが挙げられ、地域特性を活かすことが地域づくりになるのではないかと意見が出されました。

## 第10分科会 学びが地域を動かす・創る

公民館が「学びを活かす場」として機能していないとの課題が出され、まずは、気軽な行事や講座により住民参加の場を作ることが必要との意見が出されました。また、「地域に求められるリーダー像」についての議論など、グループ毎に熱心な意見交換が行われました。

## 市民会 (The USGA)

会場参加者とともに2日間の集いを振り返りました。

### コーディネーター

●向井健 松本大学総合経営学部専任講師

●小林文人 東京学芸大学名誉教授

### コメンテーター

「公民館のようなもの」という言葉に、公民館の理念がある。松本市は、それに答えを出しているのではないか。



分科会の発表

## 伊藤麻理 松本市公民館運営 審議会委員長

この集会は、公民館のあり方を点検できる良い集まりである。

●木下巨一 飯田市公民館副館長  
職員に「専門家が作ればよいものができる、自分の仕事だから住民に任せてはいけない」という勘違いがある。

### 会場から

公民館のない地域にも、若者の新しい動きや公民館のような場所もある。しかし行政とはまだ距離があり、もっと近づいてほしい。

赤羽松本市教育長は、「この大会から、どうしたいのか、どうなりたいのか、ヒントを見つけたい」と締めくくりました。このような集いで答えがすぐに出ることはありませんが、回を重ねるごとに新しい変化があり、着実な進歩を感じることができました。

## おこひる

「大きくなったら、動画を作る人になりたい」と園児が言った。将来の夢の広がり、驚きを隠しきれなかった私▼自分の幼い頃の夢は、「ケーキ屋さん」だった。特別の日に食べるケーキのおいしさやデコレーションの可愛らしさに憧れを抱いたからだ▼今の子ども達にとっての魅力や憧れは、スマホの中に？思考を柔軟にしないでなく、子どもにとってもスマホのある生活が当たり前になっている▼動画を観る機会が増えて、「楽しい」とか「自分もやってみたい」と感じたことから出た将来の夢なのだろう。私自身にとっても情報詰まった必需品となっている。思考の広がりを与えてくれる存在にもなっているようだ▼職場で、童謡「春よこい」を歌った。この歌を知らない世代の人もいて、寂しさを感じた。私は情景を思い浮かべながら、母の背中をぬくもりや優しい歌声を思い出した。懐かしさに包まれた▼機械もいいが、人のぬくもりもいい。そう思う私も、昔人間になっ

てしまったのだろうか。

地域探訪

歩まろう松本!

33

城北地区ウォーキング

城北地区にはお堀と中央図書館を巡る《お城コース2.5km》、一時代前の雰囲気を楽しめる《街並みコース4km》、緑と眺望が素晴らしい《坂道コース5km》、そして今回歩いた《中央コース6km》の4コースがあります。

旧開智学校をスタート地点に、中央図書館の駐車場を西へ横切り、「大門沢川」を渡って、深志高校正門前までの上り坂を歩きます。途中小路を左へ入ったところに小ぢんまりとパワースポット「姫宮神社」があります。なんでも、婦人病にも効くのだそうです。ゆっくり上って行くと今度は右手に十段ほどの階段。古墳時代の円墳で案内板に「蟻ヶ崎饅頭塚」とあります。松本深志高校グラウンドを見下ろしてさらに北上すると「蟻ヶ崎見

童公園前」の信号に。この辺りで後ろを振り返ると塩尻方面までも遠望でき、相当上ってきたことを実感できます。右折して法務局方向へ下ると、沢村公園西の市民プールフェンス前に「松本歩兵第50連隊射撃場跡」の案内板がありました。現在の東の自衛隊官舎から西の蟻ヶ崎児童公園までの土地を、松本市が国に寄付をし、ごう音公害で移転するまで、射撃場として設置されたことが書かれています。平和な日々のでありがたみ



を痛感しました。かつて牛道だった道を一部通り、今は無人化されている松本測候所の

アンテナを左に見て、小路を南下すると、突然芝生の広場に出ました。案内板の上部に「城北地区防災緑地」と記載がありました。防災緑地は、住宅密集地に優先的に設置されるようですが、松本ではまだ三か所のみです。

この案内板には「沢村遺跡」の説明があり、ここ沢村には遺跡があちこちにあることが読み取れます。「沢村」という地名は、北、東、西から大小の「沢」が流れ集まるところから生まれたようです。

そこからすぐ南に「大日堂・首貸せ地蔵尊」の史跡もあります。新旧の見どころが混在しています。最後に、江戸時代の藩士の住まいであった「高橋家住宅」の前を通り、城北公民館へ着きました。天候にめぐまれ勉強になった約2時間、1万2千歩の楽しいウォーキングでした。

わがまち自慢第15回

笹賀おしどり桜

ソメイヨシノの木が緑色に変わったころ、笹賀地区の小中学校や公民館などで薄桃色の可憐な八重桜が花を開き始めます。「ササガオシドリザクラ」(Prunus x Sasaga-Oshidori)と言います。学名に地区名が付いています。



この桜は、笹賀地区の百瀬優雄さんが自宅で栽培していたオシマザクラの種から新たに育てた木に、昭和62年頃八重桜が咲いたのです。そこで親交のあった桜研究の第一人者、元東大日光植物園主任の久保田秀夫さんに、調査をお願いしました。近くに植えてあったオシドリザクラと交雑した新種と認定され、平成4

年、久保田さんによりササガオシドリザクラと命名されました。オオシマザクラの特徴を残した八重桜で、50〜60枚の花弁を持ちます。平成26年の大蔵省造幣局の桜の通り抜けに加えられたことが地元紙で報じられ、一躍その名が広まりました。しかし地元でも、どこに植えられているのか知る人も少なく、公民館にも問い合わせがありました。そこでこの地区名を冠した桜を保護し、もっと多くの人に知ってもらおうと、地域づくりの一環として「笹賀おしどり桜守る会」が組織され、広報活動の一つとして絵本が作られました。保護・育成する活動が、桜の成長とともに次世代に広まっていくことを願います。

地産地消のかんたんレシピ

見た目にも楽しい『チーズとシノの海苔巻き』

材料：スライスチーズ、青シノ、焼き海苔

- 1. 焼き海苔に青シノ、スライスチーズの順にのせ、くるくる巻く
2. 巻き終わりの海苔に水を少し付けて止める
3. 食べやすいように、斜め半分に切って盛りつける

